

平成 21 年 6 月 20 日現在

研究種目：基盤研究 C
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18530703
 研究課題名（和文） 文化的アプローチによる国語科メディア学習プログラムの実証的
 開発研究
 研究課題名（英文） A demonstrative study of the development of media learning programme
 in Japanese classes by a cultural approach
 研究代表者
 松山 雅子 (MATSUYAMA MASAKO)
 大阪教育大学 教育学部 教授
 研究者番号：50173924

研究成果の概要：

現職教員向けメディア学習実践理論書と学習ソフトをセットした『自己認識としてのメディア・リテラシーPARTⅡ』（学習ソフトDVD付）（松山雅子編著・香山喜彦プログラムデザイン、畠山兆子、羽田潤、栗野志保、増田ゆか、松尾澄英、土居安子分担執筆）』（教育出版、2008年8月20日、全262頁）を刊行し実践現場に寄与するべく、平成18年度から継続的に行ってきた学習プログラム試案とそれに基づく小中学校および大学におけるパイロット授業、学習者反応の検討、現職研修ワークショップと指導者反応の考察を行った。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	2,800,000	0	2,800,000
2007年度	600,000	180,000	780,000
2008年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総計	3,800,000	300,000	4,100,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：国語科メディア学習プログラム・動画リテラシー・メディア・リテラシー・ナラティブ論・自己認識

1. 研究開始当初の背景

学習者の言語実態ならびに言語環境に根ざした国語科教育の実践理論、教材・教授法の開発を目指すとき、現代の児童・生徒の言語習得実態がマルチ・モダリティー化

している実態を無視することはできない。体系的なことばの力の育みをめざす国語科教育において、こうした言語環境のありようを見つめ、これまでの国語教育学の理論的・実践的蓄積を踏まえながら、広義のリテ

ラシー教育の構想が急務と考えられた。

たとえば、イギリスの学習指導要領にあたる国語科（英語）ナショナル・カリキュラムを例にとると、文字言語テキストと映像テキストの双方において身につけるべき、読解表現力の体系的学習が求められ、教材・教授法の開発もすでに一定の到達度を示している。一方、わが国は、情報科学教育、社会学的メディア研究などの先行研究は豊かではあるが、国語科教育としてのメディアのとらえ方を明確に位置づける実践理論の構築ならびに教材・教授法の開発においては、なお確固たるものが見えなかった。わが国の学習者の日常的メディア環境、すなわち、言語環境を十分考慮した国語科メディア学習プログラムの開発が必須な事柄と考えた次第である。

2. 研究の目的

本研究は、マルチ・モダリティー化のありようを、①日常的なメディア・ミックス状況の構造的理解、②個々のメディア・テキスト特性の分析・把握、ならびに③児童・生徒のメディア・テキスト反応の考察、という三点から捉えようと試み、それに基づいた教材と指導理論書の開発をめざした、国語科メディア教育の実証的開発研究の一環に位置づけられるものである。

具体的には、マウスさえ使えば、小学校中学年から、動画を動画で編集しながら、文字・映像・音楽の組み合わせが生む語りの仕掛けを、読解と表現の双方から学べる学習ソフトを開発し、それに伴う指導実践理論書を編纂して実践に寄与することを目的とした。加えて、その理論的背景を明確にし、現職研修ならびに構内研究の場を通じて、実際の授業作りにかかわり、学習

者の反応分析・評価の方法も含む教育現場への貢献を目指した。

3. 研究の方法

- (1) 学習者のメディア環境ならびにメディア理解の実態調査
- (2) 指導者のメディアに関する基本的理解の掌握
- (3) イギリスならびにドイツの母国語教育におけるメディア・リテラシーに関する理論書・実践資料（教科書・ツツなどを含む）の研究
- (4) 国際比較国語教育シンポジウム（大阪教育大学国語教育講座主催）に参画し、イギリス、ドイツ、アメリカ、フランスの研究者との交流を通して、知見を深める
- (5) (1)～(4)を踏まえ、教材・教授法の試案を構想し、大阪府下の公立小中学校において、パイロット授業を実施し、学習者反応を検討し、国語科メディア学習プログラムを構築する。指導実践理論書ならびに学習ソフト・ワークシートの開発
- (6) 開発したソフトを用いた授業実践の指導助言、および現場研修におけるメディア学習講座の開設、休暇中の子ども向けワークショップの開催
- (7) 学習者反応分析ならびに評価法の検討

4. 研究成果

現職教員向けメディア学習実践理論書と学習ソフトをセットした『自己認識としてのメディア・リテラシーPART II』（学習ソフトDVD付）（松山雅子編著・香山喜彦プログラムデザイン、畠山兆子、羽田潤、栗野志保、増田ゆか、松尾澄英、土居安子分担執筆）』（教育出版、2008年8月20日、全262頁）を刊行

し実践現場に寄与するべく、平成18年度から継続的に行ってきた学習プログラム試案とそれに基づく小中学校および大学におけるパイロット授業、学習者反応の検討、現職研修ワークショップと指導者反応の考察を行った。リーディング・リテラシーとの関わりにおいて、国語科におけるメディア・リテラシーのとらえ方に関して、一定の方向性を示した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 7 件)

- ① 松山雅子、メディア・リテラシーにおける教材研究の力、「国語授業の改革7 教材研究を国語の授業づくりにどう生かすか」(学文社)2007 pp.166-171 査読無
- ② 住田勝、臨床国語教育学の授業論：研究者が実践者ととともに授業を作る取り組みの実際、『臨床国語教育を学ぶ人のために(難波博孝編)』(世界思想社)2007、pp. 271-282 査読無
- ③ 香山喜彦・宮城里沙、メディア・リテラシー教育用簡易メディア編集ソフトウェアの制作、「梅花女子大学文化表現学部紀要」4、2007、pp.115～119 査読無
- ④ 香山喜彦、畑耕治郎、宮城里沙、メディア教育用簡易ビデオ編集システムの制作、「教育システム情報学会第32回全国大会講演論文集」2007、pp.92～95 査読無
- ⑤ 香山喜彦、畑耕治郎、宮城里沙、初等教育用簡易メディア編集ソフトウェアの

制作、「平成19年度情報教育研究集会講演論文集」2007、pp.213～215 査読無

- ⑥ 松山雅子、読む書き言葉と見る書き言葉、「国語教育研究」437、2008、pp.4-9 査読無
- ⑦ 井上博文、テレビ番組の言語表現の諸相—子どもを主たる視聴者とする番組「おはスタ」の場合、「国語教育学研究誌」26、2009、. pp.1-29 査読無

(①～⑦査読 無)

[学会発表] (計 8 件)

- ① 土山和久、ドイツの国語教室における創造性の位置価値、第112回全国大学国語教育学会宇都宮大会、平成19年5月26日、宇都宮大学
- ② 住田勝、小学校の話し合い能力に関する実践的研究—中学年を対象とした実験授業を通して、第112回全国大学国語教育学会宇都宮大会、2007平成19年5月26日、宇都宮大学
- ③ 松山雅子、第二教育段階におけるリテラシー指導方略指針体系の考察、第113回全国大学国語教育学会岡山大会、2007平成19年11月3日、岡山大学
- ④ 土山和久、ドイツ言語教授学の諸相、第113回全国大学国語教育学会岡山大会、2007平成19年11月3日、岡山大学
- ⑤ 畠山兆子、アニメ番組が仕掛けた名作の世界①—ハウス食品世界名作劇場「小公女セーラ」(1985)の場合、第46回日本児童文学学会全国大会、2007平成19年10月21日、仙台戦災復興記念館
- ⑥ 松山雅子、アニメ番組が仕掛けた名作の世界②—ハウス食品世界名作劇場「ピーターパンの冒険」(1989)の場合、第46回日本児童文学学会全国大会、2007

平成 19 年 10 月 21 日、仙台戦災復興記念館

- ⑦ 香山喜彦、畑耕治郎、宮城里沙、メディア教育用簡易ビデオ編集システムの制作、教育システム情報学会第 32 回全国大会、2007 年 9 月 12 日、信州大学平成 19 年
- ⑧ 香山喜彦、畑耕治郎、宮城里沙、初等教育用簡易メディア編集ソフトウェアの制作、平成 19 年度情報教育研究集会、2007 平成 19 年 11 月 10 日、大阪大学

〔図書〕（計 2 件）

- ① 松山雅子編著・香山喜彦プログラムデザイン、畠山兆子、羽田潤、栗野志保、増田ゆか、松尾澄英、土居安子分担執筆）『自己認識としてのメディア・リテラシーPART II』（学習ソフト DVD 付）（教育出版、2008 年 8 月 20 日、全 262 頁）
- ② 松山雅子編著（畠山兆子、栗野志保、増田ゆか、松尾澄江、分担執筆）「国語科メディア学習プログラム授業実践」（パンフレット）私家版、2009 年 3 月 31 日

〔その他〕（計 1 件）

大阪教育大学リポジトリ

<http://ir.lib.osaka-kyoiku.ac.jp/dspace/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松山 雅子 (MATSUYAMA MASAKO)
大阪教育大学 教育学部 教授
研究者番号：50173924

(2) 研究分担者

土山 和久 (TSUCHIYAMA KAZUHISA)
大阪教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：00273821

住田 勝 (SUMIDA MASARU)
大阪教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：40278594

井上 博文 (INOUE FUMIHIRO)
大阪教育大学・教育学部・教授
研究者番号：80223270

畠山 兆子 (HATAKEYAMA TYOKO)
梅花女子大学・文化表現学部・教授
研究者番号：50172911

香山 喜彦 (KAYAMA YOSHIHIKO)
梅花女子大学 文化表現学部・教授
研究者番号：90169657

(3) 連携研究者

羽田 潤 (HATA JUN)
武庫川女子大学・非常勤講師（現・佐賀大学・文化教育学部・准教授）
研究者番号：90509788